

体育館床面の固さによる安全管理 ～床下構造の違いから～

令和2年度

日田市立高瀬小学校 岩崎 敬

先月は体育館の床下通気口を防ぐことにより、体育館の室温並びに床面の温度の低下を防ぐことができるということをお伝えしました。しかし床下の通気口は木材を結露によって腐らせないなどの意味がありますので、私は定期的に床下点検をし、時には通気もしています。

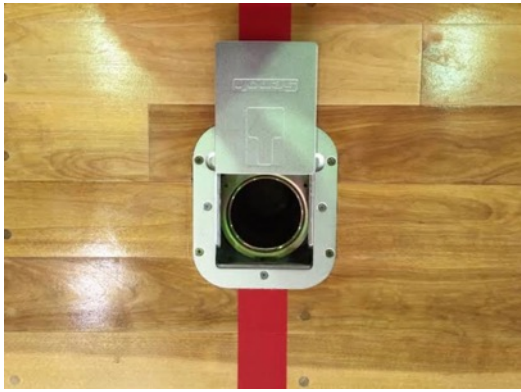


床下の気温 8℃、湿度 48%（床上とほぼ同じ）OK！

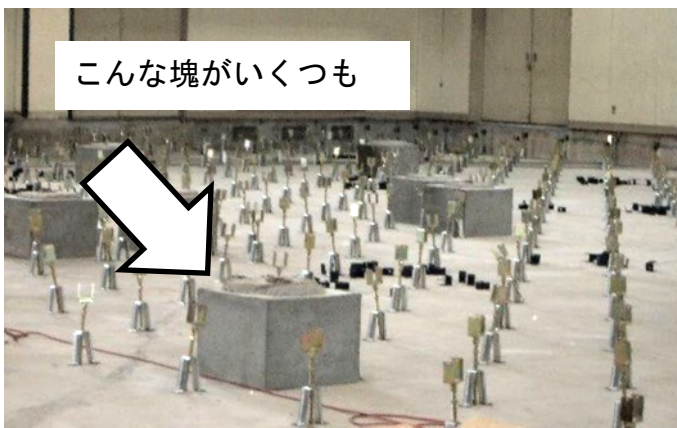
ついでに本校体育館の床下の構造も確認しました。本校体育館も写真下と同じような鋼製組床式の作りになっていました。



そこで、私が体育授業でいつも気をつけていることの一つをご紹介します。それは、「バレーボール、バドミントン、鉄棒の支柱立て付近は床が硬いため、なるべく周辺での運動は避ける」ということです。



支柱の床下部分はこんな感じで一切弾力なし コンクリートの塊です



子どもたちに、マット、跳び箱を置いていい場所いけない場所を伝えています。新学習指導要領に示された「学びに向かう力・人間性等」の中の学ぶ内容に「場や用具の安全に気を付ける（気を配る）」など健康・安全について記されていますが、改めて安全について教えることの大切さを感じたところでした。